

国立病院機構熊本医療センター

2010 No.151



くまびょうNEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所
国立病院機構熊本医療センター
〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501(代)
FAX (096) 325-2519

謹賀新年



新年の御挨拶

国立病院機構熊本医療センター

院長 池 井 聡

明けましておめでとうございます。

旧年中は多方面にわたりご指導、ご支援を賜りまして誠にありがとうございました。職員一同、心より御礼を申し上げます。

昨年は新病院が完成し、患者移転も無事に終了し、新病院での診療を開始することが出来ました。128列のCTなど医療機器も大幅に更新し、さらに本年1月から遅れていました新しいリニアック、ラルストロン（腔内照射装置）の放射線治療機器も使用が可能になり、診療機能を向上させることが出来ました。また、昨年12月1日から旧病院別館跡地に仮設駐車場を開設し、城内プール跡地の駐車場から比べるとすこし近くに駐車して頂くことが出来るようになりました。現在、旧病院本館の取り壊し作業をしています。その跡地に駐車場を整備いたします。いましばらく、ご不便をお掛けしますがなにとぞご了承賜りますようお願い申し上げます。

新しい病院になりましたが、これからも職員一同、先生方のご指導のもと最新の知識・医療技術と礼節をもって良質で安全な医療を目指してまいります。

本年もよろしくご指導、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

本年が良い1年になりますよう祈念申し上げます。

2010年 元旦



アナログ医者50年

医法) 如水会
嶋田病院

会長 嶋田 英剛



医師免許取得以来、今春で丁度50年が過ぎました。紅顔の青年医師も、今や白髪でも残ってくれば、と念願する有様です。これを機に病院も倅に全権を託し、医師会も退きました。押し寄せるデジタルの波に流された所為もありましょう。アナログ医者の出番は少なくなりました。

大学医局（二内）、公的病院、一時開業と経回り、13年間は一応内科医として過ごし、1972年からの37年間は透析医として働きました。この間1976年から現在地に透析主体の病院を開設し、現在に至っております。幸い透析液処方改良と透析機器の工夫とに興味を持って仕事に没頭し、あっと言う間に歳月

が流れました。考えてみれば医師という、言わば生業の中に、終生興味の持てる対象を得たこと、又この分野の揺籃期から完成期に至る変遷を観続けられたこと、これに勝る幸せはありません。

しかも国立病院機構熊本医療センターのお膝元で、同門の先生方にも恵まれ、公私にわたりご援助を受けました。病診連携が大きく取り上げられる以前からの病診連携をさせて頂きました。こうして大過なく医師生活を送ることができましたのも、先生方に負おうものと、紙面を借りて厚くお礼申し上げます。なお向後、小院の後継者達にも、ご高配のほどお願い致します。

さて些か暇の持てる身分に戻ってみますと、これと言う趣味もなく過ごしましたので、暇を持て余すのではないかと心配していましたが、幸い歴史に若干の興味があり、時おり内外の史跡戦跡を訪ねる旅を楽しみにしております。今年は第一次大戦で、大叔父がドイツのUボートと戦った地中海のマルタ島と、ハンニバル対スキピオの最終決戦の跡、カルタゴ終焉の地チュニジアを訪れることができました。

また7年前は「まだ古希でしょう。」と、こき使われ、今年は喜寿ですが、まだ時々あてにされています。既に大学のクラスメイトの3割が幽冥界を異にしております。残された者として今暫く世のため人のため微力を尽くせば幸せです。

第28回 国立病院機構熊本医療センター開放型病院連絡会開催予定のご案内

標記連絡会につきましては下記の日程を予定しています。正式には連絡協議会の決定を待ってご案内申し上げます。

- 日時： 2010年2月20日（土）18時30分～20時30分（予定）
- 場所： 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センターホール
- 内容： 1. 紹介症例の呈示
2. 総合討論
3. 特別講演（演題未定）

講師 厚生労働省 医政局 総務課 保健医療技術調整官 中野 滋文 先生

〈連絡先〉 国立病院機構熊本医療センター管理課（高倉、牧野）

〒860-0008 熊本市二の丸1-5 電話 096-353-6501 内線2313



医長
緒方 憲久
耳鼻咽喉科全般、中耳手術、
頭頸部腫瘍、鼻アレルギー
日本耳鼻咽喉科学会専門医
日本アレルギー学会専門医
日本がん治療認定医機構暫定教育医
外国医師臨床修練指導医
補聴器適合判定医師
熊本大学医学部臨床教授



医師
羽馬 宏一
耳鼻咽喉科全般、頭頸部腫瘍
喉頭疾患、嚥下障害
日本耳鼻咽喉科学会専門医

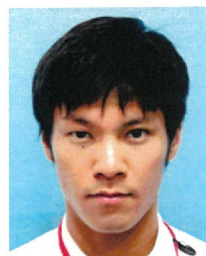
診療内容・特色

耳鼻咽喉科・頭頸部外科全般を取り扱っています。耳疾患は中耳炎、突発性難聴、めまいを中心に外来・入院治療を行っています。中耳炎に対する鼓室形成術は聴力障害の回復および中耳炎再発防止を目指して努力しています。中耳内視鏡も導入されました。鼻副鼻腔疾患では慢性副鼻腔炎に対して内視鏡手術を数多くおこなっています。難治性のアレルギー性鼻炎に対しては後鼻神経切断術も内視鏡下に行っています。頭頸部領域の癌に対しては放射線治療に化学療法を併用することで機能の保存を目指している一方、進行癌に対しては手術をおこなっています。

最近では嚢胞性疾患（ガマ腫）にOK432の局注療法も行っています。



医師
竹村 考史
耳鼻咽喉科全般、鼻副鼻腔手術、
難聴
日本耳鼻咽喉科学会専門医
日本がん治療認定医
補聴器適合判定医師



医師
門脇 嘉宣
耳鼻咽喉科全般
日本耳鼻咽喉科学会会員

診療実績

	平成19年度	平成20年度
鼓膜・鼓室形成手術	159名	132名
内視鏡下副鼻腔手術	53名	58名
頭頸部腫瘍 (唾液腺腫瘍)	89名 29名	95名 27名
口蓋扁桃摘出	24名	28名
ラリngoマイクロ	25名	28名
年間手術症例数	383名	376名

研究実績

当科での最近の治療成績を下記の論文で報告しています。

- 1) 緊急入院を要しためまい症例122例の検討. 耳喉頭頸 81:627-631, 2009
- 2) 当科における鼓膜形成術の治療成績. 耳喉頭頸 81:639-641, 2009
- 3) 当科におけるベル麻痺症例の治療成績. 国立病院機構熊本医療センター医学雑誌. 9:32-36, 2009

ご案内

外来は月一金曜の毎日です。新患の受付は午前11時までになっています。

手術日は月、水、金の終日です。

時間外および休日の急患にはon call体制で対応しています。

■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 『くまびょうNEWS』編集室まで



No. 166

脳神経外科 (No. 6)

最近のトピックス

脳卒中治療ガイドライン2009 が発表されました。

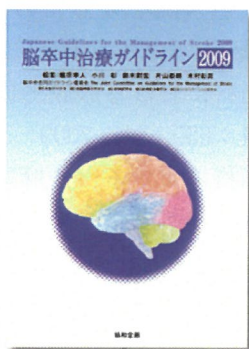


脳神経外科
吉里 公夫

先日、5年ぶりに改訂された脳卒中治療ガイドライン2009が発表されました。脳卒中のうち、脳梗塞やくも膜下出血なども内容の変更が行われていますが、当科で最も入院患者数が多い脳出血にも種々の変更がありました。

当院では下表の様に、1年間に約170~180例の脳出血による入院があり、そのうち被殻出血がもっとも多く、次が視床出血で、皮質下出血と続きます。この順位はほとんど変化ありませんが、最近は高齢者のアミロイドアンギオパチーと思われる皮質下出血が増えているように思います。

- ①被殻： 50例
 - ②視床： 40例
 - ③皮質下：35例
 - ④小脳： 25例
 - ⑤脳幹： 10例
 - その他：10例
- (症例数は概数)



手術を必要とする脳出血は主に被殻、皮質下、小脳の3部位ですが、2004年のガイドラインではその手術適応に関して、実際の臨床に合致していない印象がありました。しかし、今回の改訂では以下の様に変更となり、

被殻出血：神経学的所見が中等症、血腫量が31ml以上でかつ血腫による圧迫所見が高度な被殻出血では手術を考慮しても良い。とくに、JCSでII-20~30程度の意識障害を伴う場合は定位的脳内血腫除去術が勧められる。

皮質下出血：脳表からの深さが1cm以下のものでは特に手術の適応を考慮して良い。手術方法としては開頭血腫除去が推奨される。

被殻出血では中等度の意識障害の患者に定位的血腫除去手術が勧められ、特に皮質下出血に関して、2004年のガイドラインでは内視鏡や定位脳手術などの非侵襲的な手術が推薦されていたものが、2009年では開頭血腫除去が推薦されるようになった事が大きな変更点です。

当院の手術適応は、今回のガイドラインとほぼ同様の適応で治療を行ってきており、今回の改訂によって治療方針を追認してもらえたように感じています。さらに皮質下出血の開頭血腫除去においても、低侵襲な小開頭で行うなどの、細かな修正を行っております。さらに手術の時期に関しても、急性期から回復期のリハビリにつなげていく上での適切な時期など、さらに検討を加え、発表していく予定です。

その他の疑問や不明な点などありましたら、いつでもご連絡くださるようお願いいたします。

医学生のための病院見学のご案内

国立病院機構熊本医療センターでは、医学生を対象に病院見学を受け付けております。日本でも有数の救急車受け入れ実績を有する救命救急センターや鏡視下手術、造血幹細胞移植や血管再生療法など最先端の医療を垣間見ることができます。お申込みは国立病院機構熊本医療センター管理課鶴見(TEL096-353-6501)迄ご連絡下さい。

※見学の際は、白衣と大学名、氏名の記載してある名札をご持参下さい。

詳細については：<http://www.hosp.go.jp/~knh/> まで

第15回 国立病院機構熊本医療センター医学学会開催のご案内

平成22年1月16日（土）

開会の辞

8:50～9:00

池井 聰（国立病院機構熊本医療センター院長）

一般演題Ⅰ「内科系1」

9:00～10:00

座長：紫藤 忠博（悠紀会病院 院長）

高尾 珠江（国立病院機構熊本医療センター6南病棟師長）

I-1 再発・難治性多発性骨髄腫に対するBortezomibの治療経験

血液内科 右田雅子 武本重毅 原田奈穂子 岩橋 温 中村美紀 井上佳子 榮 達智
長倉祥一 日高道弘 塚本敦子 清川哲志 河野文夫

I-2 イマチニブが有効であったt(5;12)転座を伴う非定型慢性骨髄性白血病

血液内科 岩橋 温 日高道弘 清川哲志 河野文夫

I-3 造血幹細胞移植後の慢性GVHDによる口内炎患者へのインドメタシンスプレーを併用した専門的口腔ケアの試み

歯科口腔外科 片岡奈々美 中島 健

I-4 造血幹細胞移植患者の口腔ケアラウンドを開始しての効果

看護部 須本麻美 樺木あい 田代里美 本岡可奈 清田莉江 白石広美 田口喜子
山下美香 高尾珠江

歯科口腔外科 片岡奈々美

血液内科 日高道弘

I-5 当院における化学療法食の見直し

管理栄養室 阿部真世 近藤高弘 大山明子 釋迦堂益子

I-6 左動眼神経麻痺にて発症した悪性リンパ腫の1例

神経内科 西 晋輔 幸崎弥之助 田北智裕 俵 哲
病理診断科 村山寿彦

一般演題Ⅱ「内科系2」

10:00～11:10

座長：豊永 哲至（国立病院機構熊本医療センター内科医長）

田中 雅美（国立病院機構熊本医療センター7西病棟師長）

II-1 細菌性肺炎に対する入院加療中に向精神薬内服を中止された精神科患者の予後

呼吸器内科 柏原光介 岡本知久 山根宏美

II-2 PTRRが奏功した線維筋性異形成による腎血管性高血圧の1例

糖尿病・内分泌科 太良史郎 橋本憲蔵 花谷聡子 児玉章子 豊永哲至 東輝一郎

救急科 高橋 毅

循環器科 金澤尚徳 本多 剛 古賀英信 宮尾雄治 藤本和輝

II-3 糖尿病性腎症に伴う末期腎不全に腹膜透析を導入した一例

腎臓内科 鹿瀬島裕 田尻景子 宮中 敬 富田正郎

- II-4 慢性腎不全患者のCAPDカテーテル挿入術に全身麻酔を行なった症例
 麻酔科 片桐光浩 宮崎直樹 橋本正博 小寺厚志 上妻精二 瀧賢一郎 江崎公明
- II-5 重症型自己免疫性肝炎の診断に3D-CT画像が有用であった1例
 消化器内科 田代奈津己 岡本有紀子 尾上公浩 片山貴文 中田成紀 前田和弘 杉 和洋
- II-6 2才女児の急性膵炎の1例
 小児科 楠本 優 緒方美佳 森永信吾 高木一孝
- II-7 内視鏡的粘膜切除にて診断しえた、食道内分泌細胞癌の1例
 消化器内科 尾上公浩 田代奈津己 佐藤有紀子 片山貴文 中田成紀 前田和弘 杉 和洋
 外科 宮成信友

一般演題Ⅲ 「循環器系」

座長：宮尾 雄治（国立病院機構熊本医療センター循環器科医長）

11：10～12：10

城 雪子（国立病院機構熊本医療センター6北病棟師長）

- III-1 無症候性心筋梗塞を発症した若年性ターナー症候群の一例
 循環器内科 釜田いずみ 本多 剛 金澤知徳 古賀英信 宮尾雄治 藤本和輝
- III-2 腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療
 心臓血管外科 片山幸広 毛井純一 岡本 実
- III-3 人工心肺用冷温水槽の性能比較と手術時間に与える影響
 臨床工学技士 新木信裕 北川 哉 田代博崇
 心臓外科 毛井純一
- III-4 128列CTを使用した血行動態評価 - 4次元CT血管画像の初期経験 -
 放射線科 井上聖二郎 荒木裕至 富高悦司 浅尾千秋 吉松俊治
- III-5 永久ペースメーカー植え込み術後に用いられる砂のう固定法とスポンジ固定法の比較検討
 看護部 松本 彩 西富佐智美 浜塚 彩 井戸誉子 大野智和 城 雪子
- III-6 当院における心エコー検査の現状
 臨床検査科 田原彩華 今鷹貴梨子 近藤明日香 垂水 綾 竹内保統 佐々木妙子

昼 食（12：10～13：00）

一般演題Ⅳ 「外科系」

座長：松本 孝一（松本外科医院 院長）

13：00～14：00

森田 恵（国立病院機構熊本医療センター教育担当師長）

- IV-1 脾臓摘出にて診断に至った脾結核の一例
 外科 有馬浩太 中川茂樹 宮成信友
- IV-2 交通外傷による小腸・腸間膜損傷による破綻出血の2例
 外科 伊良波諭 藤原沙織 宮成信友 中川茂樹 田中洋平 富樫陽彦 松本克孝
 多森靖洋 本田志延 大堂雅晴 芳賀克夫 片渕 茂 池井 聡
- IV-3 慢性硬膜下血腫の外膜および硬膜についての免疫組織学的検討：炎症反応の意義
 脳神経外科 植川 顕 大塚忠弘
 徳田脳神経外科 徳田 元
 熊本大学脳神経外科 森岡基浩 河野隆幸 倉津純一
- IV-4 熊本医療センター精神科病棟におけるイレウス症例について
 精神科 西 良知 杉本展子 橋本 聡 山下建昭 渡邊健次郎

IV-5 下腿犬咬創後に皮膚壊死を来たし動脈皮弁再建を要した一例

形成外科 東野哲志 大島秀男
岸病院 岸 泰至

IV-6 子宮体部 endometrial intraepithelial carcinoma の一例

産婦人科 谷川広紀 永井隆司 西村 弘 三森寛幸
病理診断科 村山寿彦

一般演題V 「経営管理・教育」

座長：末次 剛輝（国立病院機構熊本医療センター経営企画室長）

14：00～14：50

守嶋 絹（国立病院機構熊本医療センター看護学校教員）

V-1 医業未収金対策

事務部 林田直久

V-2 退院調整の実態調査結果から考える看護師の役割

看護部 香月 麗 山下美香 北川貴章 松本和佳子

V-3 作業療法部門の紹介、今後の課題と展望

リハビリ科 和田真美 永田光二郎 榮 彩人 西崎武文

V-4 難治性の皮膚症状を有する精神疾患患者へのMSW介入の効果

地域医療連携室 木下良子 前川はづき 橋本珠莉 荒木陽子
皮膚科 新森大佑
精神科 山下建昭

V-5 ユニフィケーションシステムを導入した卒業前看護技術チェックの効果

附属看護学校 石原史絵 守嶋 絹 豊田恵美 安浪小夜子

一般演題VI 「救急・その他」

座長：原田 正公（国立病院機構熊本医療センター救急科医長）

14：50～15：50

本松美和子（国立病院機構熊本医療センター7東病棟師長）

VI-1 魚骨刺入により入院加療を要した2症例

耳鼻咽喉科 門脇嘉宣 竹村考史 羽馬宏一 緒方憲久

VI-2 ブドウ糖投与により乳酸アシドーシスを呈し相対的ビタミンB1欠乏症が疑われたアルコール依存症の1例

救急科 山田 周 北田真巳 清水千華子 櫻井聖大 宮内大介 橋本 聡 児玉章子
原田正公 高橋 毅

VI-3 救命救急センター看護師のエンゼルケア時の思い

看護部 井上円佳 園田瑞紀 山下美和 三隅夕子 北川貴章 森山ひろみ 有馬京子

VI-4 当院における国際共同治験への取り組みについて

治験センター 林淳一郎 湊本康則 奥山由佳子 市下由美 宮本美穂 正代敦子
救急科 高橋 毅

VI-5 簡易懸濁法の導入とその後の運用について

薬剤科 幸 邦憲

VI-6 胸郭入口部非造影MR angiography描出改善の試み

診療放射線科 酒本 司 市川和幸 阿萬貴史 今西美嘉 有迫哲朗 井手口忠光 西本博美

総評・閉会の辞

河野 文夫（国立病院機構熊本医療センター副院長）

15：50～16：00

平成21年度 院内感染対策研修会のご案内

開催日：2010年1月20日(水)～22日(金)

開催場所：国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

日程	時間	講 義 内 容		
1月20日(水)	12:00～	受付開始		
	13:00～	オリエンテーション		
	13:10～	開会式 国立病院機構九州ブロック事務所		
	13:20～	エビデンスに基づく院内感染対策－標準予防策、感染経路別対策の考え方 聖マリア病院	感染制御部部长	本田 順一
	14:00～	佐賀大学病院における院内感染対策と感染症科による診療援助 佐賀大学医学部付属病院	感染制御部副部长	福岡 麻美
	15:00～	MRSAと多剤耐性緑膿菌について 大阪大学医学部付属病院	感染制御部教授	朝野 和典
	15:45～	感染性腸炎・食中毒について(主に、ノロウイルス対策について) 国立病院機構福岡病院	統括診療部部长	岡田 賢司
	16:30～	手術部位感染対策 NTT東日本関東病院	外科主任医長	針原 康
1月21日(木)	09:00～	新型インフルエンザ対策 東北大学大学院	臨床微生物解析治療学教授	平潟 洋一
	10:40～	院内感染対策サーベイランスシステムの構築 国立病院機構熊本医療センター	検査科	川崎 達也
	11:10～	抗菌薬の適正使用 福岡大学病院	腫瘍・血液・感染症内科講師	高田 徹
	12:00～	昼 食		
	13:00～	医療従事者感染防止対策 熊本大学医学部附属病院	感染免疫診療部助教	宮川 寿一
	13:50～	院内感染起因菌の分子疫学 国立国際医療センター研究所	感染症制御研究部部长	切替 照雄
	14:45～	疥癬の院内感染対策 国立病院機構熊本医療センター	皮膚科医長	浅尾 香恵
	15:30～	流行性角結膜炎について 国立病院機構熊本医療センター	眼科医長	青木 浩則
	16:30～	結核の院内感染対策－保健所の立場から－ 熊本市役所	健康福祉政策課	佐藤龍一郎
	1月22日(金)	09:00～	血液幹細胞移植における院内感染対策の実際 国立病院機構熊本医療センター	血液内科医長
09:40～		血管カテーテル由来血流感染対策 国立病院機構熊本医療センター	血液内科医長	日高 道弘
10:20～		滅菌と消毒 山口大学医学部附属病院	薬剤部准教授	尾家 重治
11:15～		人工呼吸器関連肺炎対策 国立病院機構熊本医療センター	呼吸器内科医長	柏原 光介
12:05～		昼 食		
13:00～		一国の事業から－ 厚生労働省医政局指導課	放射線管理専門官	清 哲郎
14:40～		院内感染制御活動におけるICDの役割～熊大病院での取り組み～ 熊本大学医学部附属病院	感染免疫診療部准教授	川口 辰哉
14:40～		感染管理認定看護師の役割 済生会熊本病院	感染管理認定看護師	家入 裕子
15:30～		全体質疑・応答 (コメンテーター)	尾家重治、家入裕子、吉田真由美、日高 道弘	
16:45～		閉講式 国立病院機構熊本医療センター	院長	池井 聡

本研修は国立病院機構本部九州ブロック事務所の主催によるものですが、席に若干の余裕がありますので国立病院機構外からの一般参加も受付します。希望される方はE-mailにて1月18日(月)までに下記宛お申し込み下さい。

3日間受講されました方には受講証をお渡し致します。

〈問い合わせ先〉 国立病院機構熊本医療センター管理課 庶務班長 牧野 功 E-mail:makinoi@kumamoto2.hosp.go.jp
〒860-0008 熊本市二の丸1-5 TEL096-353-6501 (内線5690)

エジプト・ファイユーム大学と姉妹協定を締結しました

平成21年11月15日から21日までエジプト、ファイユーム市、ファイユーム大学医学部での第3国研修コース“感染症対策”に講師として派遣され帰国しました。本コースは、従来スエズ運河大学で行われてきましたが、コースリーダーのアハメド・ゴハリー博士がファイユーム大学の学長に就任したことにより、今年よりファイユーム大学で行われることになりました。ファイユーム市は、首都カイロの南90kmに位置する農業県の中心でカイロより古い都です。ファイユーム大学は、2005年に新設された新しい国立の総合大学で医学部はじめ13の学部を有し、学生数は23,000人です。ゴハリー学長は、1992年に、国立熊本病院の“血液由来感染症コース”に参加し、我々との交流を続けていました。その後、当院の血液由来感染症コースへのアフリカ諸国からの参加希望者が多いことより、交通の便がよく、ゴハリー博士などの信頼する講師陣の構成が可能なエジプトで当院と同じ内容の研修コースを実施する第3国研修計画が浮上しました。その後、曲折を経てエジプトJICA（国際協力事業団）の援助の下にゴハリー博士をコースリーダーとしたエジプトでの研修コースが実現しました。このような経緯から国立熊本病院は、このコースの計画立案から参画し、第1回より毎年講師を派遣してきました。ゴハリー学長は、

本年11月1日に来日し、新築になりました当院を訪問しています。その後、ゴハリー学長から、ファイユーム大学と、当院の姉妹施設協定の提案があり、今回の訪問時に、池井院長の名代として姉妹協定（11月18日）を締結してまいりました。本年は、タイ・コンケン大学と併せて2つの外国の大学との姉妹締結が行われ、これで当院は、スエズ運河大学、中国・広西医科大学と併せて4つの海外の大学と姉妹協定を締結しました。今後益々国際医学交流が活発になり、病院間にとどまらず職員間同士の交流が望まれます。

（副院長 河野 文夫）



姉妹協定書を交換するゴハリー学長と河野副院長

第2回肝疾患地域連携を深める会のお知らせ

（日本医師会生涯教育講座3単位認定）

- 内容：教育講演** 座長：七城木村クリニック院長 木村 圭志 先生
1. 「インターネットによるIFN地域連携クリティカルパスの新たな展開」
国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長 杉 和洋
 2. 「熊本医療センターにおける肝疾患在宅医療支援の取り組み」
国立病院機構熊本医療センター地域医療連携室MSW 前川はづき
- 特別講演** 座長：国立病院機構熊本医療センター消化器内科医長（二の丸肝臓談話会代表）杉 和洋
「生活習慣病予防は肝臓から始めよう」
大分大学医学部附属病院肝疾患相談センター 清家 正隆 先生

日時：平成22年1月22日（金）19：00～21：00

場所：熊本全日空ホテルニュースカイ 2階『平安』 TEL 096-354-2111（代）

平成20年4月より肝炎に対するインターフェロン公費助成制度が始まり、各都道府県に肝疾患診療連携拠点病院が設置され、肝疾患地域医療連携の重要性が増してきています。当院では地域中核病院として、インターフェロン療法地域連携クリティカルパスの運用により多くの医療施設との連携を深め円滑な診療を行うとともに、実地医療に根ざした勉強会として「二の丸肝臓談話会」を開催しています。今回その一環として特別講演会を企画しました。

多数のご参加を歓迎します。

【問合せ先】国立病院機構熊本医療センター消化器科医長 杉 和洋 TEL：096-353-6501（代表）FAX：096-325-2519

研修医レポート

臨床研修医

1年次 ^{かまだ} 釜田いずみ



こんにちは。研修医1年目の釜田です。今年の3月に佐賀大学を卒業し、4月より熊本医療センターで研修医としてお世話になっております。出身は天草で、熊本医療センターでは2年間研修させていただきます。

4月から研修が始まり、麻酔科、救急部、外科、現在は循環器内科で研修させていただいています。研修内容ですが、麻酔科では血管確保・挿管・脊椎麻酔といった手技や、術中の麻酔管理について勉強させていただきました。麻酔科での研修当初は、挿管の際に喉頭鏡が上手く使えず失敗ばかりでしたが、2か月間の研修でようやくできる事が増えてきました。

救急部では、救急車対応や重症患者の全身管理など

を学ばせていただきました。症状から鑑別診断を挙げ検査を行い、その結果から診断をつけていくという救急医療の醍醐味を味わうことができました。

外科ではいろいろな手術に入り、糸結びや縫合を基礎から指導していただきました。緊急手術の際は、術前の検査データからは思いもしなかった開腹所見を認めることもあり、とても貴重な経験をすることができました。また、緊急手術ならではの緊張感を味わうことができました。

現在研修させていただいている循環器では、虚血性心疾患や心不全を中心に勉強させていただいています。心臓カテーテル検査に入り右心カテのカテーテル操作をさせていただいています。また、急性冠症候群の疑いのある場合は指導医の先生と一緒にモービルに同乗し、来院前からカテーテル治療まで急性期の大部分を見ることができ、とても勉強になりました。

研修医となっておよそ8か月が経過しました。分からない事ばかりで多くの先生方をはじめスタッフの方々にもご迷惑をおかけすると思いますが、これからもよろしくお願ひ致します。

駐車場利用のご案内について

新病院での診療開始後、早4ヶ月を経過しました。

当院が熊本市より借用しておりました熊本合同庁舎横の「病院専用駐車場(旧市民プール跡)」を本年12月18日(金)をもって閉鎖いたしました。シャトルバスも同日をもって廃止しました。

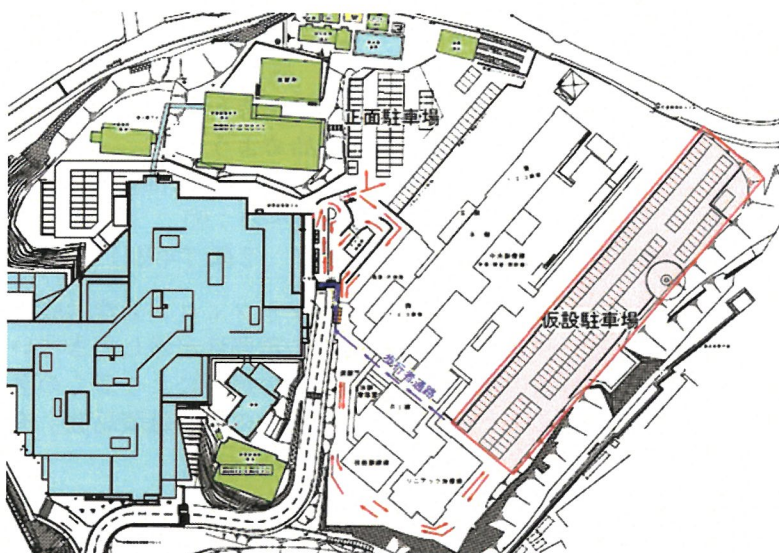
駐車につきましては、12月1日より病院敷地内の仮設駐車場に駐車をお願いしています。病院敷地内駐車場は、仮設駐車場と併せて273台の利用が可能です。仮設駐車場は、旧病院解体跡地を利用している関係で、水はけが1部悪いところがあり、ご迷惑をおかけしています。

現在、旧病院解体工事を進めており、22年1月15日頃に、仮設駐車場が20台程度広がり、仮設駐車場と併せて293台の利用が可能となります。また、仮設駐車場への乗り入れも、一方通行が可能となる予定です。

旧病院解体の状況により、病院敷地内の駐車スペースが、変わりますが、ご協力とご理解をお願いいたします。

患者さまには、駐車場スペースの問題で、ご不便とご迷惑をおかけいたしますが、よろしくお願ひいたします。また、駐車場の案内等ご不便をおかけいたしますが、駐車場係員の指示に従って頂く様併せてお願ひいたします。

(企画課長 森 幸一)



研修のご案内

第132回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

日時▶平成22年1月18日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

1. 呼吸器内科による胸部X線写真供覧 国立病院機構熊本医療センター呼吸器内科医長 柏原 光介
 2. 持ち込み症例の検討
 3. 症例検討「好酸球増多の症例」 国立病院機構熊本医療センター血液内科 岩橋 温
 4. ミニレクチャー「腹膜透析の導入について」 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科 宮中 敬
- 日頃、ご疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参頂きますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター研修部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501(代表) FAX:096-325-2519

第101回 三木会（無料）

（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座3単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成22年1月21日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター研修室2

1. 『両肺の腫瘍様病変および急性肺炎を伴いケトアシドーシスを呈した2型糖尿病の1例』
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科 花谷 聡子
 2. 『褐色細胞腫を伴った糖尿病の1例』
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科 児玉 章子
 3. 『糖尿病ケトアシドーシスを起こし入院したklinefelter症候群合併2型糖尿病の1例』
国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科 太良 史郎
- なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、ご持参頂きますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一郎 TEL 096-353-6501(代表)内線5705

第97回 総合症例検討会(CPC)

〔日本医師会生涯教育講座5単位認定〕

日時▶平成22年1月27日(水)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

テーマ：神経性食欲不振症より腎不全に至った症例 (30歳代 女性)
臨床担当) 国立病院機構熊本医療センター腎臓内科医長 富田 正郎
病理担当) 国立病院機構熊本医療センター臨床研究部病理室長 村山 寿彦

「20歳頃より摂食障害があり、25歳で神経性食欲不振症と診断された。」

*臨床経過と腎不全の原因、経過について検討します。最後に病理よりマクロ、ミクロの所見と剖検診断が解説されます。通常のレクチャー(解説)の前に、馴染みの少ない疾患、病態は、その分野に関するミニレクチャーを予定しております。基本的知識を学んだ後で活発なディスカッションをお願い致します。どなたもお気軽にご参加下さい。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515(直通)

第48回 シンポジウム「医療の将来」

ー熊本の救急医療ー

〔日本医師会生涯教育講座5単位認定〕

日時▶平成22年1月30日(土)15:00~18:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

- 座長：熊本県医師会長 北野 邦俊
1. 救急医療現場からⅠ 国立病院機構熊本医療センター救命救急部長 高橋 毅
 2. 救急医療現場からⅡ 国保水俣市立総合医療センター診療部長・救急センター長 廣瀬 豊樹
 3. 救急医療現場からⅢ 熊本県消防長会長 橋本 孝
 4. 医師会の立場から 熊本県医師会理事 岡本 喜雄
 5. 行政の立場から 熊本県健康福祉部医監 東 明正

参加費は無料です。御来聴を歓迎します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501(代表)内線2630 096-353-3515(直通)

2010年

研修日程表

1月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1月	研修センターホール	研修室	その他
4日(月)			8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 外来
5日(火)			15:00~19:00 外科術前後症例検討会 C1 16:30~18:00 血液病懇話会 C2 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
6日(水)			17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
7日(木)			7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 内分泌代謝内科カンファレンス C2
8日(金)			8:00~ 8:45 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
9日(土)	15:00~18:00 熊本地区核医学技術懇話会		
12日(火)			15:00~18:30 外科術前後症例検討会 C1 16:30~18:00 血液病懇話会 C2 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2 18:30~21:00 泌尿器科・放射線科合同ウログラム C1
13日(水)			17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
14日(木)			7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 内分泌代謝内科カンファレンス C2
15日(金)			8:00~ 8:45 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
16日(土)	8:30~18:00 第15回 国立病院機構熊本医療センター医学会 19:00~20:30 第132回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		
18日(月)			8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 外来
19日(火)			15:00~19:00 外科術前後症例検討会 C1 16:30~18:00 血液病懇話会 C2 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
20日(水)	12:00~17:20 平成21年度 院内感染対策研修会 (国立病院機構) (第1日目) 19:00~21:00 第63回 特別講演 [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 座長 熊本県医師会理事 田代 祐基 「糖尿病診療の新たな展開」 熊本大学大学院医学薬学研究部代謝内科学教授 荒木 栄一		17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
21日(木)	9:00~17:15 平成21年度 院内感染対策研修会 (国立病院機構) (第2日目)	19:00~20:45 第101回 三木会(研2) (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定] [日本糖尿病学会指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定] 19:30~21:00 有病者歯科医療研究会(研3)	7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 内分泌代謝内科カンファレンス C2
22日(金)	9:00~16:55 平成21年度 院内感染対策研修会 (国立病院機構) (第3日目)		8:00~ 8:45 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
25日(月)			8:00~ 8:30 MGH症例検討会 C1 16:00~18:00 泌尿器科病棟カンファレンス 5西 17:00~18:00 小児科カンファレンス 外来
26日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	19:00~21:00 小児科火曜会(研1)	15:00~19:00 外科術前後症例検討会 C1 16:30~18:00 血液病懇話会 C2 18:00~21:00 救急部カンファレンス C2
27日(水)	19:00~20:30 第97回 総合症例検討会(CPC) [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 「神経性食欲不振症より腎不全に至った症例」		17:30~19:00 消化器疾患カンファレンス C1
28日(木)	18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会(研2)	7:50~ 9:00 整形外科症例検討会 C1 17:00~19:00 循環器カンファレンス 6北 17:30~19:00 超音波カンファレンス 消 18:00~19:00 内分泌代謝内科カンファレンス C2
29日(金)			8:00~ 8:45 麻酔科症例検討会 手 8:00~ 9:00 消化器病研究会 C1 17:00~21:00 救急部カンファレンス C2
30日(土)	15:00~18:00 第48回 シンポジウム [日本医師会生涯教育講座5単位認定] 座長 熊本県医師会長 北野 邦俊 「医療の将来—熊本県の救急医療—」 1. 救急医療現場からⅠ 国立病院機構熊本医療センター救命救急部長 高橋 毅 2. 救急医療現場からⅡ 国保水俣市立総合医療センター診療部長・救急センター長 廣瀬 豊樹 3. 救急医療現場からⅢ 熊本県消防長会長 橋本 孝 4. 医師会の立場から 熊本県医師会理事 岡本 喜雄 5. 行政の立場から 熊本県健康福祉部医監 東 明正		

研1~3 2階研修室1~3 C1 3階カンファレンスルーム1 C2 3階カンファレンスルーム2 5西 5階西病棟 外来 小児科外来 6北 6階北病棟 消 消化器病センター読影室 手術室

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター 2階 地域医療研修センター

TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)